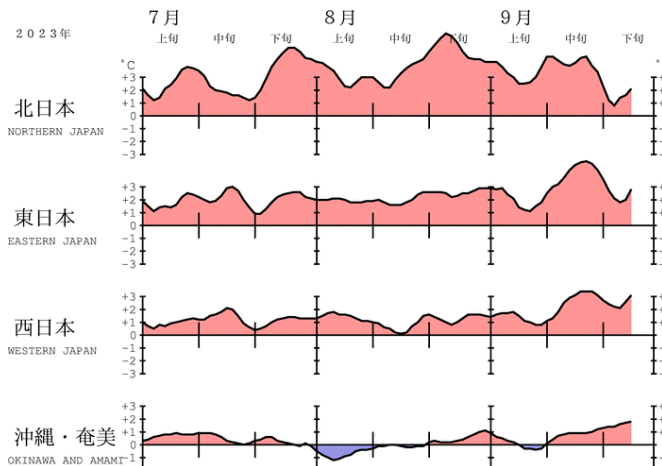


データから見える日本の異常気象

事務局

図1 前3か月間の気温経過：地域平均気温平年差の5日移動平均時系列



日本の年平均気温偏差の経年変化を示したものの。細線（薄い線）は各年の平均気温の基準値からの偏差、太線（濃い線）は偏差の5年移動平均値、直線は長期変化傾向を示している。基準値は1991～2020年の30年平均値。図から、各年や5年移動ではばらつきがあるが、長期変化傾向としては日本の年平均気温は上昇傾向にある。

本年度は沖縄・奄美を除く日本のほぼ全地域で平年よりも気温の高い日が続き、その上昇幅も、北日本では3℃を大きく上回る日が続いた。8月下旬をみると、5℃近く上回っている時期も存在するため、今年の夏が平年よりも異常に暑かったことが伺える。

図2 日本の年平均気温偏差（1898～2022年）

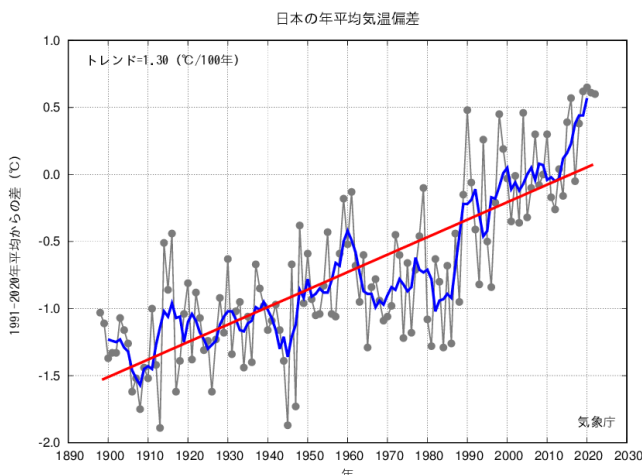
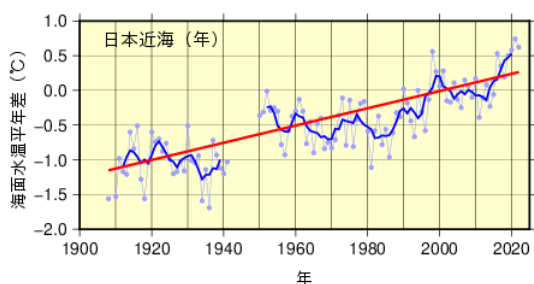
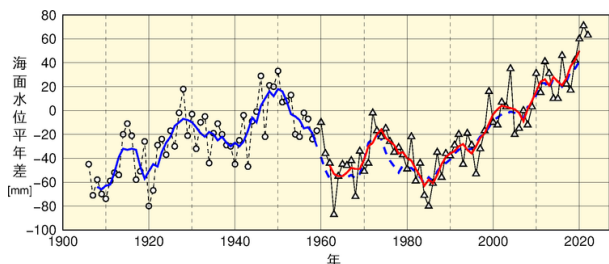


図3 日本近海の全海域平均海面水温（年平均）の平年差の推移



2022年までのおよそ100年間にわたる海域平均海面水温（年平均）の上昇率は、+1.24℃/100年である。この上昇率は、世界全体で平均した海面水温上昇率（+0.60℃/100年）より大きく日本の気温上昇率（+1.30℃/100年）と同程度の値であることが分かる。

図4 日本沿岸の海面水位変化（1906～2022年）



2020年の日本沿岸の海面水位は、平年値（1991年～2020年平均）と比べて63mm高く、統計を開始した1906年以降で2021年の71mmに次いで2番目に高い値である。

※グラフは気象庁データ引用、文章は参照